

戦争中の



衣
国民服は、男性の服装は、背広から国民服に統一された。
モンペル女性の服装はスカートから動きやすイモンペが推奨され、普及した。
簡素化し服装は簡素化され、物資の節約が図られた。

食
食料不足は戦争による物資不足で、食料は配給制となり、米の代わりに麦やサツマイモなどが配給された。代用食の普及し米が不足したため、サツマイモ・ジャガイモ・麦・すいこん・野草などが食べられた。

住
都市部は空襲による被害が増加し、都市部では防空壕の設置や郊外への疎開が進められた。
地方は都市部からの疎開者を受け入れるため、住居の不足が問題となった。

第一次世界大戦中、日本は連合国側として参戦し、日英同盟を理由にドイツに宣戦布告しました。
主な活動は、アジア、太平洋地域におけるドイツの拠点へ青島や南洋諸島などの攻撃、占領、および中国への進出でした。
また、戦時景気による総生産も増加したと見えます。

私たちは再び第一次世界大戦のような悲劇を繰り返さないために、互いの違いを認め、対話を絶やさないことが大切です。小さな対話を放置せず、事実に基づき冷静に話し合い、妥協点を模る姿勢が火種を小さくしていくことに繋がります。歴史が示すように、命の重さと被害の惨憺さを理解すること、流言に惑わされず、客観的に情報を確かめること、異なる文化や価値観に触れ、尊重すること。平和は一人ひとりの選択と行動がう

は、互いの違いを認め、対話を絶やさないことが大切です。小さな対話を放置せず、事実に基づき冷静に話し合い、妥協点を模る姿勢が火種を小さくしていくことに繋がります。歴史が示すように、命の重さと被害の惨憺さを理解すること、流言に惑わされず、客観的に情報を確かめること、異なる文化や価値観に触れ、尊重すること。平和は一人ひとりの選択と行動がう

戦争の原因

第一次世界大戦

第一次
世界規模の戦争である。世界大戦は、全世界の経済大国を巻き込み、連合国と中央同盟国の2つの陣営に分かれて戦われました。
1914年7月28日、オーストリア王国は、当時ドイツおよびオーストリアの同盟国であったセルビアに宣戦布告しました。この戦争のきっかけはオーストリア王国の皇太子がサラエボ事件で暗殺されたことがきっかけに、ヨーロッパの複雑な同盟関係や民族問題、帝国主義、軍拡競争などが複合的に絡み合い、世界大戦へと発展していきました。

第一次世界大戦中、日本は連合国側として参戦し、日英同盟を理由にドイツに宣戦布告しました。主な活動は、アジア、太平洋地域におけるドイツの拠点へ青島や南洋諸島などの攻撃、占領、および中国への進出でした。また、戦時景気による総生産も増加したと見えます。

今出来ること

私たちは再び第一次世界大戦のような悲劇を繰り返さないために、互いの違いを認め、対話を絶やさないことが大切です。小さな対話を放置せず、事実に基づき冷静に話し合い、妥協点を模る姿勢が火種を小さくしていくことに繋がります。歴史が示すように、命の重さと被害の惨憺さを理解すること、流言に惑わされず、客観的に情報を確かめること、異なる文化や価値観に触れ、尊重すること。平和は一人ひとりの選択と行動がう

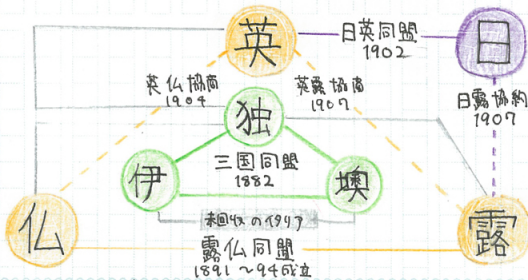
私たちは再び第一次世界大戦のような悲劇を繰り返さないために、互いの違いを認め、対話を絶やさないことが大切です。小さな対話を放置せず、事実に基づき冷静に話し合い、妥協点を模る姿勢が火種を小さくしていくことに繋がります。歴史が示すように、命の重さと被害の惨憺さを理解すること、流言に惑わされず、客観的に情報を確かめること、異なる文化や価値観に触れ、尊重すること。平和は一人ひとりの選択と行動がう

私たちは再び第一次世界大戦のような悲劇を繰り返さないために、互いの違いを認め、対話を絶やさないことが大切です。小さな対話を放置せず、事実に基づき冷静に話し合い、妥協点を模る姿勢が火種を小さくしていくことに繋がります。歴史が示すように、命の重さと被害の惨憺さを理解すること、流言に惑わされず、客観的に情報を確かめること、異なる文化や価値観に触れ、尊重すること。平和は一人ひとりの選択と行動がう

私たちは再び第一次世界大戦のような悲劇を繰り返さないために、互いの違いを認め、対話を絶やさないことが大切です。小さな対話を放置せず、事実に基づき冷静に話し合い、妥協点を模る姿勢が火種を小さくしていくことに繋がります。歴史が示すように、命の重さと被害の惨憺さを理解すること、流言に惑わされず、客観的に情報を確かめること、異なる文化や価値観に触れ、尊重すること。平和は一人ひとりの選択と行動がう

同盟関係

同盟とは、国家・団体・個人などが同じ目的のために同じ行動をとるようによりよく協力すること。その約束に基づいて生じた関係のこと。



編集後記

第一次世界大戦について新聞をつくってみて、戦争中の大変さや国同士の関係性、どの戦争をおして今も生きているか大切なことを、思いがけないこと、いいことが分かった。このように新聞をつくることで歴史を理解したくなる見持ちが生まれ、今を大事に大事に生きていこうと、改めて思うことができた。